

「端午の節句の由来」

昔、中国の方では同じ数字の月と日が重なる日に御祝いをしたりする習わしがありました。

端午の節句は月初めの“午の日”の事を指し、初めは5月に行なわれる行事ではなかったようです。



「なぜ5月5日なの？」

午の「午」という字を違う読み方で読むと“ご”と読み、午の漢数字の五をかけて、毎月5日の事を指すようになり、そして“5月5日”を端午の

節句と言うようになったと伝えられています。

端午の節句では、“邪気をはらうか”があるといわれる菖蒲(しょうぶ)を家の中に置いていました。

「いつ頃中国から伝わってきた？」

今から約2,300年前の中国から伝わってきたという説が一番強く、当時の中国で大きな出来事があったそうです。

当時の中国で国王の側近の“屈原”という国王から信頼されていて、人情味があり、正義感が人よりも強く町人達からも信頼されていたそうです。しかしこの国にもいるような、妬む者の陰謀があり、屈原が失脚させられ、

国からも追われてしまったとされています。

屈原が国王達に裏切られてしまったと、あまりのショックに5月5日に“汨羅江”(べきらく)に飛び込み自ら命を絶ってしまったそうです。その事を知った信用していた国民たちが屈原の体が魚に食べられないようにと、大きな音を出し魚を寄せ付けないように“ちまき”を投げ込むなどして、屈原の身を守ったそうです。

「現代の5月病にも関係あるかも…」

5月の時期は病気が無くなる人が多かった為、5月は“悪い月”と言われる根源となったと伝えられてきたようです。

さらに5月5日と“5”が重なる事から“忌日”と言われており、厄除けや、健康祈願を行っていたそうです。

また日本では奈良時代から本格的に端午の節句が風習となりました。しかし日本は中国から伝わってきた事だけでなく、昔からの日本独自の習わしも織り込んでいながら、現代の風習になっていったとされています。

現代における“五月病”ももしかしたらここからきた…?

子供の日に与えられていますが、子供の祝いと共に、大人の健康祈願も厄払いも!

